

福島清彦教授記念号に寄せて

福島清彦教授は2005年4月、本学経済学部教授に就任され、2010年3月に定年退職されるまで、わずか5年間の在職期間でしたが、本学ならびに経済学部の発展のために大いに寄与されました。

福島先生は、大学院修士課程修了後、経済ジャーナリストとして、新聞社に勤務されました。その後民間のシンク・タンクである野村総合研究所に移られ、60歳の定年まで研究を続けられました。その間、米国に9年、英国に3年と長きにわたって、海外に駐在されました。その後、先生は2005年4月に本学部に教授として着任され、本学部が経済政策学科を新たに開設した時に基幹科目として位置付けた「経済政策論」を担当していただきました。この科目には多くの学生が出席し、基幹科目担当者としての重責を大いに果たして頂きました。また、ゼミナール活動においても毎年学生をヨーロッパに連れてゆき、現地の国際機関・民間機関などへの調査をコーディネートされるなど、大変熱心に学生の教育にあたられました。

また先生は本学に在職された5年間に4冊の著書を出されました。その中で2009年1月に出版された『環境問題を経済から見る』（亜紀書房）は、日経BP社から「日経 Biz-Tech 賞」を受賞されました。

福島先生の研究は、第一に資本主義社会をアメリカ型資本主義とヨーロッパ型資本主義として対比させつつ、その経済社会構造が持つ特徴を明らかにし、来るべき21社会にふさわしい社会像を研究した点です。第二は、21世紀の人類にとって最優先に解決しなければならない課題の一つとなった環境問題について、経済という視点から研究したことです。特に、20世紀が環境破壊を経済成長過程における必要悪として認識し、外部不経済的要因としてとらえてきたのに対し、福島先生は環境にやさしい経済政策こそ、一国の経済を潤すとして、各国の環境政策について詳細に分析してこられました。このことが前述した「日経 Biz-Tech 賞」を受賞された理由でもあります。第三に2009年に誕生したオバマ政権の特徴を市場原理主義の終焉と規定し、アメリカ社会が環境国家、福祉国家、教育国家を目指しながら、政府の役割が重要になるとの分析を進められました。

このような先生の研究と業績は、経済学界のみならず、本学ならびに経済学部の学問的名声を高める上で、大きな貢献をなすものであったということが出来ます。

福島先生は、2010年3月に退職されましたが、先生のご功績を永くとどめるため、本号を先

生の記念号といたします。先生の今後のご活躍を祈念すると同時に、これまでと変わらぬご助力を本学ならびに経済学部のために賜りますようお願い申し上げます。

2011年1月

経済学部長 郭 洋春